

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年11月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	みしまケアセンターそよ風		
所在地 (電話番号)	三島市萩196-1	(電話) 055-980-5422	
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年6月4日		

【情報提供票より】( 20年 5月 14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13人, 非常勤 4人, 常勤換算	17 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷金	有			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(入居時償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,333 円			

### (4) 利用者の概要( 5月 14日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	循環器クリニック 新堀内科 渡辺歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「落ち着いた雰囲気の中で自分らしさを保ちながら暮らし続ける事」を念頭に置き、地域に根付いた取組みを行っている。建物の四方は住宅に囲まれ、2階にあるホームは広く明るい共同空間となっている。利用者の安全と自立に努め、外出支援、歩行訓練、散歩、音楽療法等その人に合った趣味活動を取り入れ充実した生活を送っている。職員は利用者の立場に立った親身な支援を心がけ、利用者職員が家族のように支え合っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>センター長以下職員一体となって取組むことの意義を十分理解し、課題を共有しているが、前回課題点への取り組みはまだ十分ではない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員参加のもと取り組み、職員1人ひとりの考えや気づきを確認することができた。結果を共有し、サービス向上への取り組みに活かすことを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>管理者、職員、家族会や町内会の代表、地域包括支援センター職員、ボランティア等多種に渡る参加者により、2ヵ月に1度開催している。ホームの状況や活動報告、情報交換を行い、より良い支援に向け有意義な会議になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問が多く、利用者、家族、職員との面談は意見や要望が出しやすい雰囲気になっている。また法人発刊の介護冊子「そよ風サロン」は介護に関するいろいろな分野からのアドバイス、情報が載っており、家族から喜ばれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入しており、夏祭りや運動会、避難訓練等行事への参加も盛んに行っている。またハーモニカ演奏や車椅子ダンス、中学生の体験ボランティアや保育園児の受入れなど、地域住民との交流も積極的に行っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全国にエリアを持つ大規模な法人組織の「そよ風」全体の運営理念を作成している。	○	地域や利用者のニーズに合わせ、地域密着型サービスの役割を反映した事業所独自の理念の作成を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人より配布された「福祉手帳」に、介護に関する役割や指導、理念が明示されている。全職員が常に携帯し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、行事への参加やボランティアの受入れを行い、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、その意義は十分理解している。課題についてはカンファレンスや会議に於いて十分話し合い改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度家族会や町内会の代表、ボランティア、地域包括支援センター 相談委員が参加し開催している。ホームの状況や行事の報告を行ったり、質疑を受けている。会議内容は記録に残し、全職員に周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での連携は行われていない。	○	事業所の状況やサービスについて市担当者に伝える機会を作り、共に課題解決に向けて取り組むことを期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームでの生活や行事の写真入りの「桜通信」「萩通信」を発行し、利用者の近況報告を行なっている。又家族の来所も多く、その折に金銭出納帳や健康状態、ケアプランを個別に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族連絡会議を年1回開催している。日頃から家族の来所は多く、職員と話す中で、意見や思いを聞きとる事ができる。出された意見や要望等は全職員で共有し、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の信頼関係の大切さは十分理解している。異動は最小限にとどめ、ユニット間で行うので顔馴染みもありダメージは少ない。	○	職員の異動について、家族への報告を工夫されたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の情報を提示し、センター長が経験に応じ参加を進めている。勤務時間内に受講できるようにし、会議で報告し職員間で共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、三島市のグループホーム連絡会議で同業者との交流の機会があり、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日帰り体験やお泊り体験ができる。現在は同施設のデイサービスから入所する利用者が多く、馴染みの関係を大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の様子、また生活暦の中から本人が得意とするもの、好きだった事を聞いたり、共に過しながら理解するように心がけている。地域の行事や季節のしきたり等の執り行い方、手芸や野菜作りなどを教えてもらい共に学び、支えあう関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の訪問は多く、利用者、家族、職員と話す中で利用者の思いや意向を知るようにしている。また表現が困難な利用者は表情や言動から思いを理解しようと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いを取り入れながら、定期的実施しているケアカンファレンスにより計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に見直しを行い、結果を次の計画につなげている。また期間にかかわらず、必要に応じて新たな計画作成を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスとは、利用者との交流や行事参加、職員の協力体制が築かれている。また利用者、家族の希望に応じて自宅への外出、受診等柔軟な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回協力医の往診がある。また利用者、家族の希望に応じたかかりつけ医受診の際は、バイタルチェック表を持参し適切な医療を受ける事が出来る様、情報を提供し、受診の結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末期を迎えた利用者はいないが、終末期における本人、家族の意向を尊重できるようにセンター方式を採用し、その対応を検討している。	○	前回評価からの課題となっている。事業所の対応について方針を定め、本人や家族の安心につなげられるよう早急に取り組むことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所時に、秘守義務について説明している。日常の言葉かけや対応は、常に目上の人として尊重し、利用者のプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の様子を見極め、一人ひとりのペースに合わせた過し方を大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを取り入れ、個々の力に応じて野菜の下ごしらえ、片付け等一緒に行っている。職員と一緒に何気ない会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるが、時間を決めている。浴室に個室が2つ並んでいて利用者同士おしゃべりを楽しんだり、入浴拒否の利用者には、タイミングを見計らって促すなど支援を工夫している。	○	一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴の支援に取り組まれたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から得意とすること、好きな事柄を見極め、音楽療法、趣味活動(習字、お茶会等)を取り入れている。また外食やドライブ等の外出も気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの買物、日々の散歩等、日常的に希望に沿って外出支援を行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員が十分理解している。入所当初は見守りを重視し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回災害訓練を行い、運営推進委員会で地域の協力を依頼している。消防担当を配置し消火器の使い方や点検の講習を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所前のアセスメントで一人ひとりの嗜好、食事量、水分量を把握し、栄養のバランスを考えている。また身体の状態に合わせ、食べやすい様に形態を変える等配慮している。	○	一人ひとりのその日の栄養摂取量や水分量を把握し、職員間で共有できるように支援の方法を工夫されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は広く明るくゆったりとしており、季節の花や置き物を飾るなど家族的な雰囲気となっている。トイレや浴室も手すりを取り付け、使いやすいように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は使い慣れたものを持ち込んだり、収納庫を利用して利用者それぞれの居心地の良さに配慮している。		